

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 (名張高等学校 定時制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「自立」「協調」「創造」を校訓とし、地域に信頼され、社会で活躍する人材を輩出できる学校。
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶や身だしなみなど基本的な生活習慣が身についている生徒。 ○ 社会で必要とされる基礎的な学力があり、自ら考え判断し、主体的に行動できる生徒。 ○ 豊かな心を持ち、人権と生命尊重の意識、規範意識や社会的マナーを備えた生徒。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業を通して、生徒の人間性、専門性を向上させるとともに、情報共有と意思疎通を図りながら、一人ひとりの生徒に寄り添い、粘り強く支援・指導を続けられる教職員集団。 ○ 研修や授業改善、業務の効率化などに前向きに取り組み、あらゆる場面において常に改善の意識をもつ教職員集団。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		生徒：学校生活の充実（授業内容・学校行事・施設設備） 進路保障（情報提供） 保護者：基礎学力の定着、進路保障・卒業、社会規範の向上 進路先：基礎学力、一般教養、協調性、誠実さ、辛抱強さ	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	保護者：進路保障・卒業、社会規範・基礎学力の定着 地域：地域に貢献できる人材の育成 公的機関：多様な生徒の積極的な受入		保護者：基本的な生活習慣の確立、生徒への愛情と関心、相互連絡と協力 地域：地域の活力の利用 公的機関：情報の共有、教育的支援・連携
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 経済的事情や家庭環境に課題のある生徒も多いが、安心して学べ、基礎学力を身につけることができる教育環境が実現している。 ○ 様々な事情により就学困難な生徒等の「学びのセーフティ・ネット」として、今後も生徒の進路実現と経済的自立を支援し、定時制の社会的役割を果たされたい。 ○ 地域や企業等の認知度を高めるため、情報発信のあり方に工夫を講じられたい。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な生徒が在籍し、目的意識や学習意欲、学力において大きな差があり個々に対応しきれない場面もあることから、個々の生徒の能力、興味・関心に応じた教育課程の編成と学習環境づくりに取り組む必要がある。 ○ 生徒が、自己の適性や能力にあった主体的な進路選択ができるようキャリア教育を見直していく。 ○ 義務教育段階の学び直しの時間を確保しつつ、基礎学力を向上させるためのさらなる授業改善に取り組む必要がある。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶の徹底を図り、基本的な生活習慣の確立を目指し、教職員と生徒及び生徒間の望ましい人間関係をつくり人権意識の向上を目指すにあたり、教職員の協働体制をより一層高める必要がある。 ○ 各教職員のそれぞれの取り組みや生徒情報が、的確に伝わるような情報共有の仕組みを作っていく必要がある。 ○ 生徒一人ひとりが集団の中でのマナーや人権意識を身に付けるとともに、学校内で自分が安心できる居場所を確保できるよう、地域や家庭、関係機関との連携を強化する必要がある。 ○ 地域や家庭、関係機関との連携を密にし、学校から地域への情報発信を進める必要がある。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力の定着を目指し、継続的な授業改善に取り組み、丁寧でわかりやすい授業を工夫する。 ○ 豊かな心の育成を目指し、人権と生命尊重の意識・規範意識の向上、社会的マナーの定着を図る。 ○ 卒業後の進路をしっかりと考えるために、キャリア教育を活かした進路指導に努める。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 信頼される学校づくりを目指し、家庭や地域、関係機関等との連携をより一層深めるために、情報発信を進めていく。 ○ 教職員自身の人権意識や生命尊重への意識をさらに喚起するため、教職員における校内外での研修機会を拡大・継続していく。 ○ 総勤務時間縮減に関する取組が適切であることから、教職員が働きがいのある職場環境の充実にめざす。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少人数学習やTTでの個別指導を実施して丁寧でわかりやすい授業を行う 【活動指標】授業評価アンケートの実施 【成果指標】各授業において、生徒の理解度・満足度 80%以上 ○ 遅刻早退を減少させ、各科目の授業出席率の向上を図る 【成果指標】各授業において、年間出席率 80%以上 	(年度末および適宜記載)	
2. 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権学習の充実を図るとともに、生命尊重の意識の向上に積極的に取り組む。 【活動指標】人権LHRの実施、命を大切にする取組の実施 ○ 学校行事、ホームルーム活動、給食の時間を充実させ、円滑な人間関係の構築を支援する。 ○ 生徒会行事等の充実を図り、多くの生徒が積極的に参加できるように工夫を重ねる。 【活動指標】生徒会行事の実施回数 【成果指標】学校生活アンケートの満足度が 60%以上 		◎
3. キャリア教育の充実と進路保証	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職場定着サポーターなどの外部機関との連携を強め、生徒の就業に対する意欲向上を図る。 ○ 生徒のアルバイトも含め就労支援を強化するため、関係機関との連携体制を確立する。 【活動指標】進路ガイダンスの実施、連携機関との協議の充実 		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 信頼される 学校作り	○ 授業公開の実施により定時制教育の周知を進める。 【活動指標】昨年度より公開期間を拡大	(年度末および適宜記載)	
	○ 家庭、地域、職場との連携をより一層深めるための情報発信 に取り組む。 【活動指標】定時制ホームページの随時更新、報道機関等への 情報提供、地元中学校への情報発信 【成果指標】学校の様子がわかると回答する保護者の割合 60%		※
	○ 生徒一人ひとりの自己実現を支援するため、教職員が育み たい生徒像を共有しながら連携協力を行う。 【活動指標】生徒面談を学期毎に2回実施 ○ 家庭との連携を綿密に行う 【活動指標】毎月の出欠状況を家庭に報告し、必要に応じて家庭 訪問する。		
改善課題			

5 学校関係者評価

明らかに なった 改善課題と次へ の取組方向	(年度末に記載)
---------------------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	(年度末に記載)
学校運営につ いての改善策	(年度末に記載)